



2024年3月期第2四半期

決算説明補足資料

2023年11月10日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、日本およびフィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



報告セグメントについては、前期まで「国際通信事業」、「フィリピン通信事業」、「国内通信事業」、「メディカル&ヘルスケア事業」、「その他」の5セグメントとしておりました。

2024年3月期より、フィリピン国内海底ケーブル完成によるフィリピンにおける通信事業の業容の拡大を踏まえ、国際通信事業とフィリピン通信事業との連携がこれまで以上に高まることを見込まれることから、国際通信事業に統合いたします。併せて、「その他」としている事業の進捗管理も国際通信事業およびフィリピン通信事業を統括している通信事業本部にて実施していることから、国際通信事業に統合いたします。

これに伴い、前年同期のセグメントの数値も新セグメントに組み替えて表示しております。

(旧セグメント)	(新セグメント)	連結子会社
国際通信事業	国際通信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ InfiniVAN, Inc. ・ ISMO Pte. Ltd. ・ KEYSQUARE INC. ・ CarrierDomain Inc.
フィリピン通信事業		
その他		
国内通信事業	国内通信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社アイ・ピー・エス・プロ
メディカル&ヘルスケア事業	メディカル&ヘルスケア事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC) ・ Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

第2四半期決算概要

売上高：5,248百万円 営業利益：925百万円

事業状況

フィリピン国内海底ケーブル（PDSCN）の海底敷設部分は完了し、陸上部分の最終工事中。SHSCが運営する人間ドック・健診センターが開院するなど、更なる成長に向けて事業拡大中。

業績については、前年同期には国際通信回線のIRU契約による大口案件の収益計上があったこと、レーシック件数が一部競争激化により減少となったこと等から、概ね減収減益の計画通りに推移。

今期業績予想

売上高：14,000百万円 営業利益：3,800百万円

※変更なし

1 | 2024年3月期第2四半期 決算概要

【2024年3月期第2四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	第2四半期				第2四半期累計			
	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	%	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	%
売上高	2,960	2,768	▲ 192	▲6.5%	5,783	5,248	▲ 535	▲9.3%
営業利益	808	511	▲ 297	▲36.7%	1,636	925	▲ 711	▲43.5%
経常利益	913	513	▲ 399	▲43.7%	2,372	1,558	▲ 813	▲34.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	632	314	▲ 318	▲50.3%	1,660	954	▲ 705	▲42.5%

2024年3月期第2四半期 実績分析

- **売上高**：国際通信事業において前年同期に大口のIRU案件の入金による収益計上があった一方、上期は大口の計上は無し。また、メディカル&ヘルスケア事業において、レーシック件数が一部競争の激化の影響を受け、前年同期比減少となった。その結果、前年同期比9.3%の減少。
- **営業利益**：国際通信事業、メディカル&ヘルスケア事業が減収となったことにより、前年同期比43.5%の減少。
- **経常利益**：2023年9月末のドル円相場が149.58円と円安になったことによる為替差益687百万円を計上（前年同期は740百万円の為替差益を計上）したものの、営業利益が減益となったことから、前年同期比34.3%の減少。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**：営業利益が減益となったことにより前年同期比42.5%の減少。

■ 国際通信事業

(単位：百万円)

	2023/3	2Q累計	2024/3	2Q累計	前年同期比
売上高	2,816		2,349		▲466 (▲16.6%)
営業利益	883		351		▲532 (▲60.2%)
利益率	31.4%		15.0%		—

前年同期には国際通信回線C2C回線の大口IRU契約案件の入金による収益が計上され、当第2四半期には計画通り計上が無く、通信機器販売の計上があり、当初計画を上回ったものの、減収減益となる。

■ 国内通信事業

(単位：百万円)

	2023/3	2Q累計	2024/3	2Q累計	前年同期比
売上高	2,117		2,093		▲23 (▲1.1%)
営業利益	431		438		+7 (+1.7%)
利益率	20.4%		20.9%		—

前年同期に計上したコロナウイルス感染症のコールセンター関係の売上が減少する一方、AmeyoJ及び秒課金サービスを組み合わせたコールセンター向けサービスの新規開拓や、電話網のIP化（PSTNマイグレーション）に対応した通信機器の構築、システム開発およびサービスの提供を行ったことから、売上、利益ともにほぼ前期並みとなった。

■ メディカル&ヘルスケア事業

(単位：百万円)

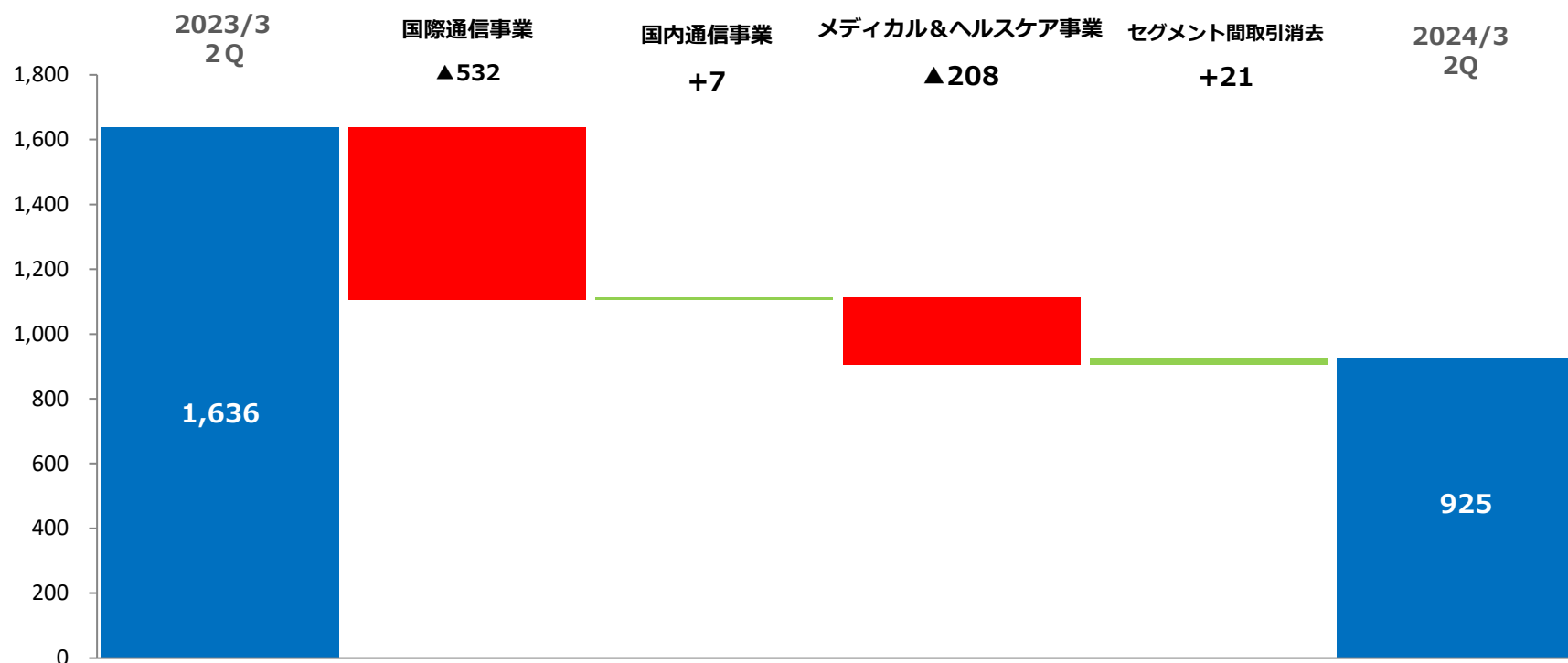
	2023/3	2Q累計	2024/3	2Q累計	前年同期比
売上高	849		804		▲44 (▲5.3%)
営業利益	340		132		▲208 (▲61.2%)
利益率	40.1%		16.4%		-

レーシックにおいて一部競争の激化があり、レーシックの件数が前年同期比減少となる。また、人間ドック・健診センターの収益計上が遅れていることから、先行投資負担により減収減益となる。

営業利益増減（前年同期比）



国際通信事業が前期に計上した大口案件の反動により、減益。
メディカル&ヘルスケア事業においても、レーシック件数が減少となり、
新規事業の立ち上げに伴う減価償却費の増加などにより減益。



連結貸借対照表（サマリー）

（単位：百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2023年3月期末	2024年3月期 2 Q	増減		2023年3月期末	2024年3月期 2 Q	増減
流動資産	14,270	15,183	912	流動負債	12,250	12,410	160
現金及び預金	6,881	5,759	▲ 1,121	買掛金	1,781	1,514	▲ 266
売掛金	2,631	3,235	604	借入金	6,170	6,531	361
リース投資資産	3,203	3,806	603	その他	4,299	4,364	65
その他	1,553	2,381	827	固定負債	1,014	3,703	2,689
				長期借入金	760	3,428	2,667
				その他	253	275	21
固定資産	10,839	14,176	3,336	負債合計	13,265	16,114	2,849
有形固定資産	8,171	11,514	3,342	純資産	11,864	13,289	1,425
無形固定資産	1,760	1,792	32	株主資本	8,905	9,656	751
投資その他資産	907	869	▲ 37	累積包括利益	449	826	376
繰延資産	19	44	25	新株予約権	263	266	2
				非支配株主持分	2,245	2,541	295
資産合計	25,129	29,404	4,275	負債・純資産合計	25,129	29,404	4,275

2 | 2024年3月期 業績予想について

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期			
		上期実績	下期計画	通期	前年実績比
売上高	12,346	5,248	8,752	14,000	13.4%
営業利益	3,311	925	2,875	3,800	14.8%
経常利益	3,464	1,558	1,992	3,550	2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,292	954	1,246	2,200	▲4.1%

通期予想について

国際通信事業は、フィリピン国内通信回線網の整備が進むことで、計画を上回る収益計上を見込んでおります。一方、メディカル&ヘルスケア事業については、レーシックにおいて一部競争の激化や物価の上昇などの影響を受けており、また、人間ドック・健診センターの収益計上が、当初の想定以上に遅れていることから、セグメント別には計画を見直しておりますが、全体としての通期業績予想値に変更はありません。

なお、為替が円安となり第2四半期において為替差益687百万円を計上しておりますが、為替の動向を予測することが困難なため、通期業績予想数値には反映させておりません。

2024年3月期 セグメント別業績予想の見直し



(単位：百万円)

セグメント		2023年3月期	2024年3月期予想		
			変更前	変更後	増減額
売上高		12,346	14,000	14,000	0
	国際通信事業	6,380	6,800	8,150	1,350
	国内通信事業	4,275	4,700	4,300	▲ 400
	メディカル&ヘルスケア事業	1,690	2,500	1,550	▲ 950
営業利益		3,311	3,800	3,800	0
	国際通信事業	1,865	2,200	2,760	560
	国内通信事業	919	1,050	920	▲ 130
	メディカル&ヘルスケア事業	536	550	120	▲ 430
	セグメント間取引消去	▲ 11	—	—	—
営業利益率		26.8%	27.1%	27.1%	—
	国際通信事業	29.2%	32.4%	33.9%	—
	国内通信事業	21.5%	22.3%	21.4%	—
	メディカル&ヘルスケア事業	31.8%	22.0%	7.7%	—

(注) 2023年3月期のセグメントの売上高・営業利益はセグメント変更に合わせ、組み替えております。

3 | Topics (2024年3月期第2四半期)

Topics. フィリピン視察旅行について

2023年10月28日から30日にかけて、株主・投資家の皆様を対象としたフィリピン視察旅行を実施いたしました。前回は2019年7月に開催し、コロナウイルス感染症の影響により延期されておりました。

フィリピン視察旅行では、弊社グループの医療施設や通信回線工事現場などの視察を行うとともに、事業戦略説明会を開催いたしました。



会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
(IPS, Inc.)

設立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容・
主な連結
子会社

国際通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供
フィリピン国内での法人向けISPの提供、フィリピン国内通信回線敷設

ISMO Pte. Ltd.
InfiniVAN, Inc.
Carrier Domain, Inc.
KEYSQUARE INC.

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

株式会社アイ・ピー・エス・プロ

メディカル&ヘルスケア事業：フィリピンでのレーシック・美容サービス・予防医療の提供

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC)
Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331